

砕石の種類、規格、主な用途等の説明

種類		規格	主な用途等の説明
単粒度砕石	1号 (S-80)	60～80mm	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用砕石に区分。 ・粒径の大きさの区分で選別。 ・粉体を含まず、砕石の粒のみで構成。 (粒度調整砕石と異なる点) ・一般的に「バラス」や「ジャリ」と呼ばれる。 (小粒のものは「ジャミ」とも。) ・大きいものは基礎工事の地盤形成に。 ・4号は、主に道路下地やブロック埋込材に。 ・5号から7号は、主に生コンクリートやアスファルト合材の骨材などに使われる。
	2号 (S-60)	40～60mm	
	3号 (S-40)	30～40mm	
	4号 (S-30)	20～30mm	
	5号 (S-20)	13～20mm	
	6号 (S-13)	5～13mm	
	7号 (S-5)	1.2～5mm	
スクリーニングス	F 2.5	0.075mm～2.5mm	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用砕石に区分。 ・砕石製造工程で発生する2.5mm以下の細かい岩粉。 ・コンクリート骨材やグラウンドの舗装材等に使われる。 ・チップとも呼ばれる。
ダスト		0mm～5mm	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用砕石に区分。 ・粒度が細かく配管等のクッション材のほか、地盤沈下しないため埋戻し材等に使われる。
粒度調整砕石	M-40	0mm～40mm	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕機で砕いたクラッシャーランに、細骨材を加え、所定の粒度分布になるよう選別・調整したもの。 ・石同士のかみ合わせが良く、強度も強い。 ・道路用砕石としてアスファルト舗装の上層路盤などに。
	M-30	0mm～30mm	
クラッシャーラン	C-40	2.5mm～40mm	<ul style="list-style-type: none"> ・道路用砕石に区分。 ・原石を破砕機で砕き、粒径により選別したもの。 ・石同士のかみ合わせは悪く、粒度調整砕石に比べ強度は低い。 ・道路の下層路盤や構造物背面の埋め戻し等に使われる。
	C-30	2.5mm～30mm	
コンクリート用砕石		2.5mm～80mm	<ul style="list-style-type: none"> ・セメントに混ぜ、コンクリートとなる砕石。 ・コンクリート製品に応じ、粒度によって区分される。
鉄道道床用砕石		19mm～63mm	<ul style="list-style-type: none"> ・バラストとも呼ばれ線路の枕木下部の道床に。 ・衝撃吸収や排水効果が高い。
砕砂		0mm～5mm	<ul style="list-style-type: none"> ・岩石を破砕機や粉砕機等で細かく砕いた砂。 ・生コンやアスファルト合材の骨材用などに使われる。
割栗石		100mm～200mm程度	<ul style="list-style-type: none"> ・工事等のために掘削（根切り）した地盤を締め固める「割栗地業」（石を敷き詰めて固める作業）等に使われる。 ・基礎面を安定させるため、通常の砕石よりも厚く、大きい。
その他の砕石 (例示)	切込砕石	0mm～40mm	<ul style="list-style-type: none"> ・割り放しで、土抜きせず一次破砕でふるいを通過したもの。 ・路盤材や路床材のほか、盛土材や埋戻し材などに使用。
	山土	0mm～300mm	<ul style="list-style-type: none"> ・路体材や埋戻し材、堤体土、盛土材に。
	グラウンド用砂	0mm～2.5mm	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドの舗装材等に。（クッション性に富む）
	籠用割詰石	200mm前後	<ul style="list-style-type: none"> ・籠マットに入れ、護岸浸食防止等に活用。
再生下層路盤材		<ul style="list-style-type: none"> ・建物解体工事や土木工事現場からのがれき類やコンクリート等を原材料にリサイクルした砕石。 ・使用用途等に応じて区分。 	
再生基礎裏込材			
再生盛土材			